

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の3年目)

1. 研究課題

近現代中国の制度とモデル

Institutions and models of modern China

2. 研究代表者氏名

村上 衛

Murakami Ei

3. 研究期間

2020年4月-2023年3月(3年目)

4. 研究目的

本研究班は「近現代中国における社会経済制度の再編（2012～2015年度）」班、「転換期中国における社会経済制度」（2016年～2018年度）班を引き継ぐかたちで、中国近現代史研究の立場から制度史研究をさらに進展させていくものである。

本研究班では長期の歴史の中で生成し、社会・経済を規定してきた慣習・常識・規範・秩序・行動パターンといったものを「制度」とみなす。本研究班では、実証研究をベースにしつつ、中国近現代の社会・経済変動と中国人・外国人の接触にともなう摩擦のなかで浮かび上がる社会・経済制度をとらえ、そのモデル化を行う。そのモデルを、日本・インド・ヨーロッパなどの他地域のモデルと比較し、中国の制度の特性あるいは他地域との共通性を明らかにする。この作業を通じて、中国近現代史の立場から日本における比較制度史研究を進展させ、研究成果を国内外に発信していくことが本研究班の目的である。

This research project to promote institutional history succeeds two earlier projects: Reorganization of Social and Economic Institutions in Modern China (2012-2015) and Social and Economic Institutions in China during the Period of Transition (2015-2019). Institutions are customs, common sense, rules, orders, and behavioral patterns. Based on empirical studies, this project explores the institutions which emerged during the modern period due to social and economic changes and friction between Chinese and foreigners. Using these empirical studies, these institutions are modeled and compared to models from Japan, India, Europe, and other places. The purpose of this comparison is to highlight both what is unique about Chinese institutions and what they hold in common with other areas. From the perspective of modern Chinese history, this project aims to promote comparative historical studies of institutions and to disseminate the project results.

5. 本年度の研究実施状況

本年度は3年計画の最終年度にあたり、若手・中堅に加えてシニアの報告も行った。新型コロナウイルスの影響があったため、昨年度同様、原則としてオンラインと対面の併用で、計17回の研究会を行い、延べ638人の参加者を得た。新型コロナウイルスに関する規制緩和にともない、学内の班員を中心に対面参加者が大幅に増加し、議論が一層活発となった。またオンラインを併用したことにより、中国・韓国や国内各地から参加者を得、貴重なコメント・質問をいただくことができた。なお、本研究班と関連して、現代中国研究センターでは合評会を2回、講演会を1回開催し、人文研アカデミーでもその成果を公開した。

6. 本年度の研究実施内容

- 2022-05-13 近現代中国の制度とモデル 中国明代における「祖制」の政治化 ——『明実録』を手がかりに 発表者 岩本真利絵 釧路公立大学 コメントーター 新田元規 徳島大学
- 2022-05-27 近現代中国の制度とモデル 「公法」と国際法の間——朱克敬『公法十一篇』（1880年）の司法に関する議論の検討 発表者 望月直人 琉球大学 コメントーター 中井愛子 大阪公立大学
- 2022-06-10 近現代中国の制度とモデル 重慶政府期における民間企業の労働力保全問題について—緩役と移動に着目して 発表者 関藝蕾 文学研究科 コメントーター 久保亨 信州大学
- 2022-06-24 近現代中国の制度とモデル 清末期蚕業留日学生と中国近代蚕糸業——蚕業から蚕学へ 発表者 王怡然 人間・環境学研究科 コメントーター 富澤芳亜 島根大学
- 2022-07-01 近現代中国の制度とモデル 清代中後期における貨幣流通の考察——錢票を中心に 発表者 任雨晴 文学研究科 コメントーター 多賀良寛 東北学院大学 明代における浙江省船司の廃止と開市船に関する論争について 発表者 樊慧慧 文学研究科 コメントーター 中島楽章 九州大学
- 2022-07-15 近現代中国の制度とモデル 清代後期北京の戒嚴体制と巡防・団防・練勇 発表者 堀地明 北九州市立大学 コメントーター 吉澤誠一郎 東京大学
- 2022-10-07 近現代中国の制度とモデル 清末における在日女性知識人にみる諸相—何震と『天義』を中心に 発表者 蔡佑佳 文学研究科 コメントーター 須藤瑞代 京都産業大学 清末におけるミリタリズム思想の公式化の経緯について——学部をめぐる考察 発表者 耿皓楠 文学研究科 コメントーター 小野寺史郎 人間・環境学研究科
- 2022-10-21 近現代中国の制度とモデル 20世紀中国文物の海外への流出とその意義——『國華』および『十三松堂日記』や『南湖東遊日記』等を主な手掛かりに 発表者 範麗雅 愛知大学 コメントーター 瞿艷丹 人文科学研究所
- 2022-11-04 近現代中国の制度とモデル 『問刑条例』から見る明代社会——条文形成の過程とその背景から探る 発表者 豊嶋順揮 立命館大学 コメントーター 加藤雄三 専修大学
- 2022-11-18 近現代中国の制度とモデル 戦後台湾の社会における抽象絵画の展開——展覧

会からみた「モデル」の構築について 発表者 呉孟晋 コメンテーター 家永真幸 東京女子大学

2022-12-02 近現代中国の制度とモデル 「五族共和」と非漢族の描写—清末民初の中国歴史教科書を中心に 発表者 羅亜妮 文学研究科 コメンテーター 石川禎浩

2022-12-16 近現代中国の制度とモデル 20世紀初頭の中国における非正規徴収について 発表者 土居智典 長崎外国語大学 コメンテーター 岩井茂樹

2023-01-27 近現代中国の制度とモデル 辛亥革命期までの孫文のアジア主義 発表者 呉舒平 法学研究科 コメンテーター 深町英夫 中央大学

2023-02-10 近現代中国の制度とモデル 満洲事変直前の在満日本人社会と満蒙鉄道問題 発表者 金子豊 文学研究科 コメンテーター 塚瀬進 長野大学

2023-02-24 近現代中国の制度とモデル 満洲を生きた在華新聞人——盛京時報社の人々を中心に 発表者 徐璐 文学研究科 コメンテーター 河崎吉紀 同志社大学

2023-03-03 近現代中国の制度とモデル 共産革命的前夜：廣東省南海縣郷村の権力與秩序（1945-1949） 発表者 莊帆 人文科学研究所 コメンテーター 蒲豊彦 京都橘大学

2023-03-10 近現代中国の制度とモデル 『澳門記略』と「澳門図説」——「広東体制」の論理と空間 発表者 村尾進 天理大学 コメンテーター 豊岡康史 信州大学

7. 共同研究会に関連した公表実績

人文研アカデミー「近現代中国研究の最前線」（2022年9月8、15、22、29日の全4回）、楊瑞松氏学術講演会（2022年11月11日）、中共百年史（石川禎浩『中国共産党、その百年』・高橋伸夫『中国共産党の歴史』）書評会（2023年3月5日）、「アカデミズムとジャーナリズムのあいだ——安田峰俊氏と語る」（2023年3月30日）。

8. 研究班員

所内

村上衛、石川禎浩、籠谷直人、呉孟晋、谷雪妮、小堀聡、申晴、莊帆、丁麗瓊、都留俊太郎、平岡隆二、古松崇志、瞿艶丹

学内

小野寺史郎(人間・環境学研究科)、太田出(人間・環境学研究科)、木下慎悟(法学研究科)、貴志俊彦(東南アジア地域研究研究所)、小島泰雄(人間・環境学研究科)、小林篤史(東南アジア地域研究研究所)、塩出浩之(文学研究科)、鈴木秀光(法学研究科)、高嶋航(文学研究科)、秋田朝美(経済学研究科)、巫靚(人間・環境学研究科)、温秋穎(教育学研究科)、関藝蕾(文学研究科)、呉舒平(法学研究科)、黄偉軒(法学研究科)、黄崢崢(人間・環境学研究科)、徐璐(文学研究科)、角屋敷直哉(人間・環境学研究科)、田子晃矢(文学研究科)、張子康(文学研究科)、趙嵩(法学研究科)、手代木さつき(文学研究科)、比護遙(教育学研究科)、彭皓(文学研究科)、穆林(文学研究科)、孟奇(文学研究科)、葉勝(文学研究科)、羅亜妮(文学研究科)、梁鎮海(文

学研究科)、岩井茂樹(京都大学)、江田憲治(京都大学)、林淑美(京都大学)

学外

殷晴(東京大学大学院人文社会系研究科)、大坪慶之(三重大学教育学部)、岡田悠希(大阪大学文学研究科)、梶谷懐(神戸大学経済学研究科)、片山剛(大阪大学)、木越義則(名古屋大学経済学研究科)、久保茉莉子(埼玉大学人文社会科学研究科)、兒玉州平(山口大学経済学部)、小林亮介(九州大学大学院比較社会文化研究院)、塩谷哲史(筑波大学人文社会系)、城山智子(東京大学経済学研究科)、田口宏二郎(大阪大学文学研究科)、谷川真一(神戸大学大学院国際文化学研究科)、富澤芳亜(島根大学教育学部)、豊岡康史(信州大学人文学部)、丸田孝志(広島大学大学院総合科学研究科)、望月直人(琉球大学)、柳静我(鳥取大学地域学部)、鷲尾浩幸(北海道教育大学教育学部札幌校)、団陽子(神戸大学大学院国際文化学研究科)、井上徹(大阪市立大学)、岩本真利絵(釧路公立大学経済学部)、易星星(兵庫県立大学国際商経学部)、王艷文(京都府立大学文学研究科)、岡本隆司(京都府立大学文学部)、荻恵里子(京都府立大学大学院文学研究科)、木村可奈子(滋賀県立大学人間文化学部)、彭浩(大阪市立大学社会科学系研究院経済学研究科)、堀地明(北九州市立大学外国語学部)、石川亮太(立命館大学経営学部)、上田貴子(近畿大学文芸学部)、小野達哉(同志社大学)、夏磊(早稲田大学経済学研究科)、郭まいか(同志社大学グローバルスタディーズ研究科)、郭夢壺(神奈川大学外国学研究科)、加藤雄三(専修大学法学部)、金丸裕一(立命館大学経済学部)、蒲豊彦(京都橘大学文学部)、川西孝男(関西学院大学総合政策研究科)、菊池一隆(愛知学院大学文学部)、久保田裕次(国土館大学文学部)、小堀慎悟(名古屋外国語大学)、坂井田夕起子(愛知大学国際問題研究所)、篠根拓人(慶應義塾大学経済学部)、周俊(同志社大学文学部グローバル・スタディーズ研究科)、城地孝(同志社大学文学部)、園田節子(立命館大学国際関係学部)、瀧田豪(京都産業大学法学部)、田中剛(帝京大学文学部)、陳来幸(ノートルダム清心女子大学)、土肥歩(同志社大学文学部)、土居智典(長崎外国語大学外国語学部)、豊嶋順揮(立命館大学文学部)、根無新太郎(大阪学院大学法学部)、箱田恵子(京都女子大学文学部)、浜田直也(神戸女子大学)、範麗雅(愛知大学)、平井健介(甲南大学経済学部)、細見和弘(立命館大学経済学部)、三田剛史(明治大学商学部)、宮内肇(立命館大学文学部)、村尾進(天理大学国際学部)、村田雄二郎(同志社大学文学部グローバル・スタディーズ研究科)、本野英一(早稲田大学政治経済学術院)、森川裕貫(関西学院大学文学部)、山崎岳(奈良大学文学部)、山本一(立命館大学文学部)、楊韜(仏教大学文学部)、吉田建一郎(大阪経済大学経済学部)、安東強(中山大学歴史系)、王怡然(浙江外国語学院)、王天馳(北京大学)、蕭文遠(中山大学歴史系)、陳姪媛(中央研究院台湾史研究所)、陳瑤(廈門大学歴史系)、彭鵬(中国歴史研究院近代史研究所)、毛曉陽(閩江学院歴史系)、楊峻懿(蘇州大学・社会学院歴史系)、Debin Ma(University of Oxford)
松村光庸、李ハンキョル

9. 共同利用・共同研究の参加状況 ※差し替えする予定

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
			(12)	(9)	(11)	(8)		(8)	(133)	(114)	(131)
学内(法人内)	7	45	17	26	23	19	360	232	295	258	173
国立大学	15	20	1	3	2	2	64	9	34	12	12
公立大学	5	9	2	4	2	1	58	24	49	12	12
私立大学	29	40	3	7	3	4	140	14	48	36	23
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外国機関	10	10	10	3	2	0	15	15	12	12	0
その他 ※	0	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0
計	66	125	34	44	32	26	638	295	439	330	220
		(33)	(16)	(18)	(13)	(11)	(222)	(145)	(194)	(140)	(118)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	15		7	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)				
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)				
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)				
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)				

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名(必須)	掲載論文数(必須)	掲載年月日(必須)	論文名(必須)	発表者名(必須)
1	近代中国研究入門	1	R4.4	第五章 政治史	石川禎浩
2	中国研究月報	1	R4.6	高橋伸夫著『中国共産党の歴史』書評	石川禎浩
3	中国現代史研究	1	R4.11	大沢武彦氏の書評に対するリプライ	石川禎浩
4	近代中国研究入門	1	R4.4	第三章 経済史	村上衛
5	岩波講座世界歴史 17 近代アジアの動態 19世紀	1	R4.7	清朝の開港の歴史的位相	村上衛
6	社会経済史学	1	R5.2	書評：神田さやこ著『塩とインド——市場・商人・イギリス東インド会社』	村上衛
7	世界・啓蒙・在地：台湾文化協会百年記念(上)	1	R5.2	李応章的摩托車：二林街的經濟發展和蔗農組合	都留俊太郎
8	歴史学研究	1	R5.8	書評：堀内義隆著『緑の工業化：台湾經濟の歴史的起源』	都留俊太郎
9	近畿大学国際学部紀要	1	R5.7	佐佐木竹苞楼《宋本鑒定雜記》考釈	瞿艷丹
10	中国出版史研究	1	R4.10	影印《大清歷朝實錄》史事雜考	瞿艷丹
11	中国典籍与文化論叢	1	R4.12	国家図書館蔵錢儀吉致錢泰吉書札箋釈	瞿艷丹
12	アジア遊学	1	R4.5	広東から来た前衛画家：1930年代の東京における李仲生の画業について	呉孟晋

13	中国年鑑 2022	1	R4.5	(動向) 美術	呉孟晋
14	学叢	1	R4.6	森琴石ゆかりの中国書画および書簡資料について：来舶清人との交流を中心に	呉孟晋
15	旅行的筆墨： 王濟遠的繪画 芸術	1	R4.9	王濟遠的油画、水彩画和水墨画：従日本交流談起	呉孟晋
16	岩波講座世界 歴史 21 二 つの大戦と帝 国主義 II - 20世紀前半	1	R5.2	日本植民地の経済—台湾と朝鮮—	平井健介
17	甲南経済学論 集	1	R5.3	1930年代日本・シヤム経済提携の挫折	平井健介
18	Living and Working in Wartime China	1	R4.7	Regulation of Time and Folk Customs in North China during the Sino-Japanese War	丸田孝志
19	京都メディア 史研究年報	1	R4.4	中華民国期の出版データの推計： 「民国図書数拠庫」をもとに	比護遙
20	新華文摘	1	R4.4	組織的血脈：党内交通研究的再検視	周俊
21	現代中国研究	1	R4.11	永遠の秘密主義—現代中国における秘密保持制度の起源とその実態	周俊
22	アジア経済	1	R4.12	現代中国における中央指導者の地方視察とその政治的意義（1949-1955）	周俊
23	中国研究月報	1	R5.3	中国共産党の組織における情報伝達（1948-1954）	周俊
24	法制史研究	1	R5.3	書評：伍躍著「順天府档案に見る宝坻県の間題団体と郷保」「順天府档案にみえる宝坻県の冬防」	小野達哉
25	中国経済史評 論	1	R4.1	論上海商業儲蓄銀行的商業網絡展開（1915～1937）	易星星

26	近世近代転換期東アジアの外交と通商－海域世界の秩序変動	1	R5.1	乾隆帝の勅諭と第2次澳門占領事件	<u>村尾進</u>
27	現代中国・別冊	1	R4.12	習近平時代の中国政治：民主・集権・官僚制——近代史からの視点	<u>村田雄二郎</u>
28	Chinese Studies in History	1	R5.1	Wealth and Power without a Strong Military?: The Four Postwar Periods of Modern East Asia	<u>村田雄二郎</u>
29	国際シンポジウム論集——内藤湖南研究の最前線	1	R5.3	内藤湖南の1912年奉天訪書と清室古物問題	<u>村田雄二郎</u>
30	近代中国研究入門	1	R4.4	第七章 政治史	<u>村田雄二郎</u>
31	アジア経済	1	R5.3	書評：吉澤誠一郎『愛国とボイコット——近代中国の地域的文脈と対日関係』	<u>村田雄二郎</u>
32	中国研究月報	1	R4.9	書評：吉川次郎『近代中国南方のメディア言語——辛亥革命期の雲南・広西とベトナム／日本』	<u>村田雄二郎</u>
33	Chinese Studies in History	1	R4.10	Modern Chinese law from the perspective of Japanese legal academics: A discussion on criminal justice	<u>久保茉莉子</u>
34	東洋史研究	1	R5.3	戦時中国の法学界—日中戦争期における『法学雑誌』と『中華法学雑誌』の分析を中心に—	<u>久保茉莉子</u>
35	外邦図研究ニューズレター	1	R5.3	9世紀後半のロシア・イギリス製アジア地図と中俄交界全図	<u>大坪慶之</u>
36	近代中国研究彙報	1	R5.3	大日本紡績上海大康紗廠工場長の回顧(上)：浅井大造氏インタビュー	<u>富澤芳亜</u>
37	京都メディア史研究年報	1	R4.4	漢字の読み書きから中国語のデジタル・リテラシーへ	<u>温秋穎</u>

38	メディア研究	1	R4.8	日本放送協会「支那語講座」のメディア史 (1931-1941)	<u>温秋穎</u>
39	メディア史研究	1	R5.2	NHK ラジオ・テレビ「中国語講座」の戦後史	<u>温秋穎</u>
40	湖北美术学院学报	1	R4.4	东方艺术之旅：试论劳伦斯·宾雍 1929—1930 年的亚洲之行	<u>範麗雅</u>
41	鹿島美術研究年報	1	R4.11	20 世紀初頭の日本における中国人所蔵の元明清絵画の評価	<u>範麗雅</u>
42	湖北美术学院学报	1	R5.3	从《国华》和中日两国学者、收藏家的日记与书信看中国书画名迹在海外的传播及其意义	<u>範麗雅</u>
43	新亜学報	1	R4.8	書評：岸本美緒著『明末清初中国と東アジア近世』	<u>彭皓</u>
44	史林	1	R4.12	書評：岡本隆司著『明代とは何か——「危機」の世界史と東アジア——』	<u>彭皓</u>
45	歴史と経済	1	R5.1	清末民国初期の中英雇用・取引契約関係—上海共同租界を中心に—	<u>本野英一</u>
46	東洋文化研究所紀要	1	R4.4	「准」と「不准」の間—清代中国における訴訟係属判断の様態	<u>木下慎悟</u>
47	法制史研究	1	R4.5	清代中国における「訪案」手続の具体像—手法・対象と官僚の認識を中心に	<u>木下慎悟</u>
48	関西大学 教職支援センター年報	1	R4.7	賀川豊彦再見—高等学校『倫理』教科書の中の賀川豊彦—	<u>浜田直也</u>

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書
なし

12. 博士学位を取得した学生の数(人)

	人数
博士学位を取得した学生の数	4

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

14. 次年度の研究実施計画

なし

15. 次年度の経費

なし

16. 研究成果公表計画および今後の展開等

来年度は C 班として延長し、研究班においては論文集への投稿を予定している中堅以上の班員の報告を中心に、今年度同様にハイフレックス方式で行う。成果報告論文集は 2024 年の前半に原稿をとりまとめ、2024 年度中に刊行する予定である。